

編集長が選ぶ2005年・尾州産地、この1年

05年、尾州産地、この1年

昨年12月号で「05年・尾州産地この1年」を掲載しましたが、原稿締め切り後も大きな動きがあったので、続報を掲載します。

原油高、受注減で産地老舗に激震走る

***** 廃業・再生法 *****

・片岡毛織は11月末、06年3月末で自主廃業することを明らかにした。大幅な受注の減少に加えて、原油高が重なり、事業継続を断念したもの。同社は尾州産地の「毛織物の祖」と言われる片岡春吉翁が明治31年に創業し、ウールの縞着尺や四幅織物の先駆企業といわれた。染色整理、糸染め、織物など一

貫体制で展開してきた。

・茶建興業は11月末、名古屋地裁に民事再生法の適用を申請した。同社は明治41年創業の老舗染色整理。遊休土地の売却などで純利益を確保してきたが、最近の燃料費高騰で、ボイラー関連費用がかさんで、利益を圧迫、自力再建が困難になり、申請した。

***** 海外戦略 *****

・早善織物が中国での紡毛織物生産を始めた。浙江省嘉興市紡毛メーカーである浙江神州毛紡有限公司を委託生産のパートナーとして取り組むもの。両社出資による整理加工の会社も設立する。「カシミア100%や獣毛高混率なら、中国渡し(FOB)価格で約2

5%の価格引き下げになる」という。価格競争力を高めて、失われた販売先を取り戻し、売上を回復させる。浙江神州毛紡有限公司は中国でもトップクラスの紡毛一貫メーカーで、日本のほか欧米向け輸出を主力にしている。

***** 素材開発 *****

・田中テキスタイルは漢方薬の一種である「羅布麻」を使った織物を開発した。羅布麻は中国新疆ウイグル自治区の羅布泊湖周辺で自生している麻の一種。通常は漢方薬「ロブノール」として煎じて飲まれる。茎部分は

繊維が細かく柔らかいのでチクチク感がない 繊維断面が六角形をしており、自然な光沢がある 綿に近い水分率を持つなどの通気性にも優れている。ウールや綿など他繊維とも相性がよく、複合しやすい。